

小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧

1998年度



1999年3月

富山県小杉町教育委員会

例　　言

1. 本書は、平成10年度に実施した埋蔵文化財分布調査及び発掘調査の概要をまとめたものである。
2. 埋蔵文化財調査に係る事務局は小杉町教育委員会生涯学習課に置き、調査事務を文化財保護係長 古城久則が担当し、生涯学習課長 御後庄司が統括した。
3. 本書に収録の調査は、生涯学習課文化財保護係の原田義範・稻垣尚美が行なった。
4. 調査の実施にあたり、富山県教育委員会文化課、富山県埋蔵文化財センターから指導・協力を得た。また、調査から報告書作成に至るまで次の方々や諸機関から教示・協力をいただいた。記して謝意を表したい。

(敬称略 五十音順)

- 池野正男・上野　幸・柿谷幸二・久々忠義・肥田裕幸・高梨清志・西野正志・藤野克彦・宮田進一
山内賢一・山本正敏
伊勢住建(株)・高岡地所・株立山興産・小杉町土地開発公社・社会福祉法人小杉福祉会・佐藤工業(株)
富山県高岡土木事務所・富山県高岡農地林務事務所・富山県山田川水系ダム建設事務所・㈲小杉スポーツ
5. 調査を実施した遺跡の出土遺物は、小杉町埋蔵文化財整理室で整理を行ない、遺物・原図・写真類は小杉町教育委員会が保管している。
6. 本書の図版・挿絵は、原田・稻垣が行なった。

目　　次

1. 平成10年度の概要	1	塚越大沢遺跡 (No.14)	13
2. 分布調査	2	畠能No.15遺跡 (No.6)	13
3. 試掘調査	3	黒河新三十三塚 (No.7)	14
HS-04遺跡 (No.3)	4	畠能No.16遺跡 (No.8)	14
HS-04遺跡 (No.1)	5	三野西遺跡 (No.10)	15
HS-04遺跡 (No.13)	6	畠能No.24遺跡南西側 (No.9)	16
戸破若宮東遺跡 (No.2)	7	4. 本調査	17
戸破若宮遺跡西側 (No.12)	8	二の井Ⅱ遺跡 [No.1]	17
HS-04遺跡 (No.15)	9	戸破若宮東遺跡 [No.2]	19
加茂社遺跡隣接地 (No.11)	9	愛宕遺跡 [No.3]	21
黒河尺目遺跡 (No.4)	12	5. 普及・活用	22
黒河尺目遺跡 (No.5)	12	※遺跡名右側のNo.は()が試掘、〔 〕が本調査の一覧表の番号を示す。	

凡　　例

1. 本文中の発掘区図版の試掘トレンチ脇の記号は、遺物の出土位置を示し種類は次のとおりである。

● 純文土器	▲ 石器・石製品	□ 弥生土器	▽ 土師器	△ 須恵器	■ 珠洲
□ 中世土師器	○ 木製品	○ 中世陶器・磁器	◇ 鉄滓	◎ 近世陶器・磁器	

*表紙写真は、愛宕遺跡(三ヶ; ふるさと農道整備事業)の調査状況(東から)

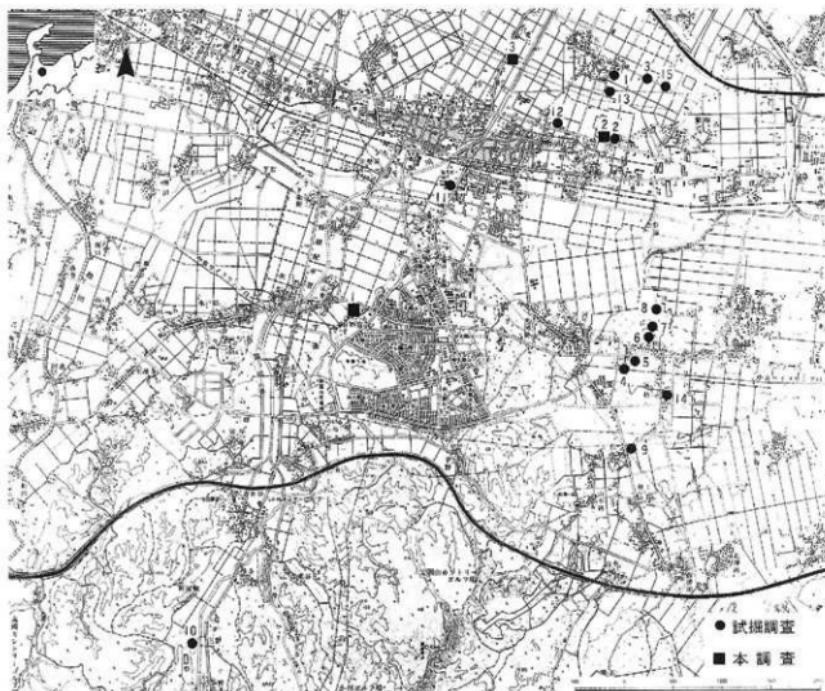
1. 平成10年度の概要

平成10年度に小杉町教育委員会が実施した埋蔵文化財の調査件数は、分布・現地確認36件、試掘調査15件、本調査3件であった。昨年度と比較すると、現地確認及び分布調査が件数減少し、これに伴ない調査対象面積も30,000m²ほど少なくなった。試掘と本調査の件数はそれぞれ同数であったが、試掘調査面積がほぼ半分、本調査面積も約800m²の減少となった。また、発掘調査の原因者別内訳は公共事業・民間事業とともに9件で、昨年度より民間事業が4件減りこの減少分を公共事業の増加で補ったことになる。とくに民間事業の試掘件数は半数になっている。

調査件数の増減要因は景気の動向に左右されることが多い、現在の景気状況では横這い若しくは減少傾向に推移すると考えられる。また、本年度増加した公共事業についても増え続ける可能性は少ないと考えられる。

発掘調査区域別では丘陵部1件、平野に接する丘陵端部の緩斜面地7件、平野部10件となっている。このうち埋蔵文化財包蔵地の隣接地と分布調査から遺物がまとまって確認された開発予定地で、試掘による遺跡の確認調査を3件実施し、開発事業との調整を行なっている。

調査体制は、町の調査員2名でこれらの調査を分担して行なっている。今年度の本調査は、3年間継続した調査1件と試掘結果から本調査が必要になり、早急な対応に追られ実施した2件である。1名が主に本調査にあたり、もう1名が昨年調査を終えた遺跡の報告書作成を優先させながら、分布・試掘調査をそれぞれで調整し行なっている。



第1図 調査位置図 (1:50,000)

(② 数字は調査一覧表の番号を示す。)

2. 分布調査

町では、周知の埋蔵文化財包蔵地の隣接地及び未踏査区域で行なわれる公共事業や民間の各種開発に先立ち、関係機関や事業者と協議し事前に現地確認を行ない、遺物の散布状況を把握するための遺跡の分布調査を実施している。

本年度埋蔵文化財包蔵地及び隣接地などでの調査依頼は36件(公共事業3件、民間事業33件)で、いずれの場合も開発計画に呼応した調査であった。このうち民間事業の内訳は、個人住宅等17件、店舗及び資材置場7件、駐車場造成7件、宅地造成2件となっている。

周知の埋蔵文化財包蔵地は小杉町全図(1万分の1)に記載され、町教育委員会の窓口に備え付けられており、分布調査で新たに発見された遺跡は登載し、その後周知の遺跡として取り扱われる。

No	所在地	原面	開業日	対象面積	対象地の種類	実況	推定遺物	開発への対応
1	三ヶ449-2外53地	店舗用駐車場建設	H10. 4. 3	377.79m ²	未踏査地	標高 52m の水田		実際なし
2	三ヶ448外55地	店舗建設	H10. 4. 3	3,005.70m ²	未踏査地	標高 52m の水田		実際なし
3	道多224	個人住宅建設	H10. 4. 7	943m ²	未踏査地	標高 15.5m の沼泽	洗浄・透中 sond	試掘調査必要
4	黒河字尺日3443 外2地	個人住宅建設	H10. 4. 7	127m ²	未踏査地	標高 10.2m の沼泽及び 篠草生地		実際なし
5	大江1003	資材販賣場建設	H10. 4. 7	938m ²	未踏査地	標高 22.0m の水田		実際なし
6	手崎字石太郎1050 外36地	宅地造成	H10. 5. 28.	3,303.91m ²	未踏査地	標高 4.0m の水田・粗地	私家土器・上層器・良器	実際なし
7	駒塚53-2	個人住宅建設	H10. 6. 24	49m ²	未踏査地	標高 2.5m の水田洋地		実際なし
8	西高木510外2地	車輪置場建設	H10. 6. 24	1,295m ²	未踏査地	標高 1.5m の水田		実際なし
9	下南70-2	個人住宅建設	H10. 6. 25	330m ²	未踏査地	標高 10.0m の宅地		透視測定結果付
10	下南125外1地	車輪置場建設	H10. 8. 4	2,022m ²	未踏査地	標高 5.5m の水田		実際なし
11	西高木532-2外51地	個人住宅建設	H10. 8. 4	896m ²	未踏査地	標高 1.3m の既存宅地		透視測定結果付
12	西高木839-1外1地	個人住宅建設	H10. 8. 4	229m ²	未踏査地	標高 1.6m の既存宅地		透視測定結果付
13	白石14	個人住宅建設	H10. 8. 4	78m ²	未踏査地	標高 1.6m の既存宅地		透視測定結果付
14	上野762外2地	宗教法人の駐車場建設	H10. 8. 24	2,727m ²	未踏査地	標高 20.0m の荒地		透視測定結果付
15	芦井字西原4551-1	個人住宅建設	H10. 9. 9	72m ²	未踏査地	標高 43.0m の既存宅地		踏査不可
16	白石468-1914号	車両場建設	H10. 9. 9	764.52m ²	未踏査地	標高 1.0m の沼澤	判定土器	壁上構
17	上野29-2	個人住宅建設	H10. 9. 9	330m ²	未踏査地	標高 8.0m の既存宅地		踏査不可
18	道多23-2	個人住宅建設	H10. 9. 9	499m ²	未踏査地	標高 18.0m の水田		実際なし
19	川被字佐久158外13地	宅地造成	H10.10.14	2,626m ²	中山北丘走路跡接続	標高 4.5m の水田		実際なし
20	背多6-13	個人住宅建設	H10.10.14	383m ²	未踏査地	標高 2.5m の水田		実際なし
21	道多270-3外2地	車輪置場建設	H10.10.22	500m ²	未踏査地	標高 26.0m の宅地		踏査不可
22	手崎字日曾1630-1	京蔭造成	H10.10.20	102m ²	未踏査地	標高 5.0m の既存宅地		透視測定結果付
23	川被字津田2420	個人住宅建設	H10.10.20	264m ²	未踏査地	標高 4.1m の傾地		実際なし
24	川被字津田2515	個人住宅建設	H10.10.20	49m ²	未踏査地	標高 4.4m の傾地		実際なし
25	黒河字長尾4915	農事場建設	H10.10.20	1,252m ²	黒河山西道路傍接地	標高 20.0m の宅地		実際なし
26	道多77-3	個人住宅建設	H10.11. 6	264m ²	黒河木曾路接続	標高 10.0m の宅地		造成済
27	黒河内地	主要方面小砂利地混凝土	H10.11.13	30,000m ²	黒河又見、黒河・中 尾毛道路及び篠根通	標高 3.2 ~ 10.5m の水田 通路	新製石斧・根器器 土器類・猪・中通口	試掘調査必要
28	川被1259	共同住宅建設	H10.11.25	659.23m ²	未踏査地	標高 4.0m の水田		実際なし
29	淨土寺163	個人住宅建設	H10.12.18	640m ²	未踏査地	標高 14.0m の水田		実際なし
30	青井谷936-1456地	資材貯蔵場建設	H10.12.18	699.357m ²	未踏査地	標高 26.0m の宅地		透視測定結果付
31	下南144	資材貯蔵場建設	H10.12.18	1,007m ²	未踏査地	標高 6.3m の水田		実際なし
32	家越内地	県立幼稚園社会実習施設(水沢市)	H11. 3. 1	480m ²	相模N16.16地跡接続地	標高 9.0m の排水路及び竹林		実際なし
33	原筑境内	県立幼稚園社会実習施設(水沢市)	H11. 3. 2	150m ²	塙船只貯蔵庫内	標高 8.0m の排水路及び竹林		実際なし
34	寺子9132	車庫場建設	H11. 3. 4	100m ²	未踏査地	標高 14.0m の通路		踏査不可
35	十代一鹿山954外2地	個人住宅建設	H11. 3. 29	194m ²	未踏査地	標高 20.0m の既存宅地		踏査不可
36	戸狩字宮3406	資材貯蔵場建設	H11. 3. 29	991m ²	未踏査地	標高 3.7m の水田	根器器・土器器・肉器	実際なし

計 36件 累計 191.07m² 対象面積割合 58.79% 507m²

表1 現地確認・分布調査一覧

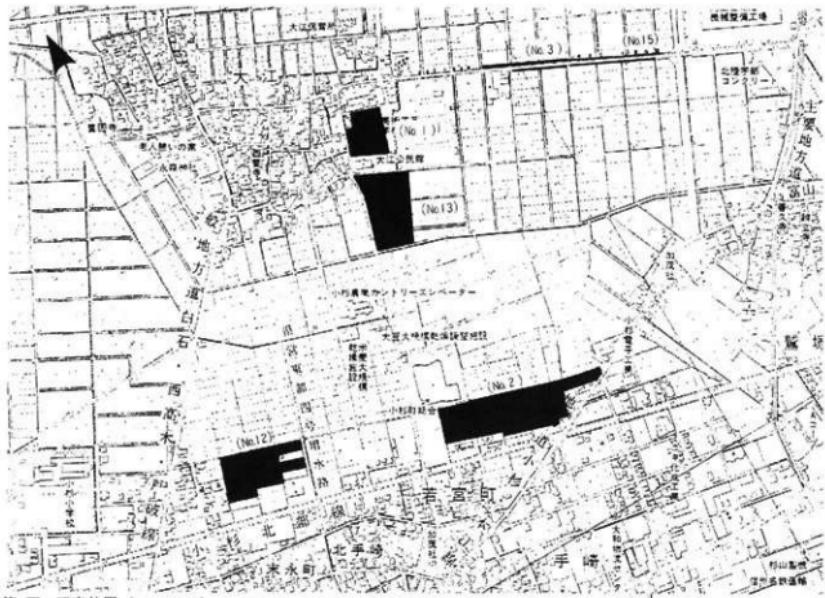
3. 試掘調査

平成10年度に町教育委員会が実施した試掘調査は、8遺跡12箇所と包蔵地外3箇所の15件であった。事業別内訳は公共事業8件、民間事業7件となっている。試掘の結果、本調査が必要になった調査は2箇所あり、民間宅地造成の1箇所は、事業者との協議後引き続き調査を行ない終了した。また、公共事業の1件はグランド造成のため、地下構造に影響の及ぶ工事部分での調査を行なうことになった。

No	遺跡名	所在地	調査期間	対象面積	発掘面積	種別	検出遺物	出土遺物	実発への対応
1	HIS-04 381004	大江333-1号	特別寄贈個人 ホーム大江氏 法務	H10.4.21 (延べ1日間)	8,000m ²	118m ² (散布地)	渠	既生土器・地中窓	支障なし
2	HIS-04 381292	戸畠字若宮2819番 手越字中島498番	宅地造成	H10.4.27～5.1 (延べ3日間)	21,115m ²	934m ² (散布地)	渠・土坑 井戸	既生土器・須恵器・土師器 陶片・中世土器器・焼瓦 骨器・近世陶器(地中窓)	本調査必要
3	HIS-04 381000	大江45番	佐渡役/木霧埋蔵 改修工事	H10.5.6 (延べ1日間)	370m ²	23m ² (散布地)		既生土器・須恵器・陶片 地中窓	支障なし
4	黒河尾11 381044	中田町新字黒河 691-3番	宅地造成に伴う 取付道路	H10.5.20 (延べ1日間)	190m ²	13m ² (散布地)			支障なし
5	黒河尾2 381044	厚岸字大沢857-2	個人住宅建設	H10.6.9 (延べ1日間)	351m ²	34m ² (散布地)			支障なし
6	厚岸No.16 381047	中老田新字光明寺 74番	厚岸御垂露合 監事業 (農業新設)	H10.6.23～6.24 (延べ2日間)	1,800m ²	101m ² (散布地)			支障なし
7	厚河新字十三塚 72番-29番	厚河新字光明寺 72番-29番		H10.6.24 (延べ1日間)	480m ²	37m ² (散布地)			支障なし
8	厚記No.15 381046	厚岸字平井1081番		H10.6.26 (延べ1日間)	1,200m ²	197m ² (散布地)			支障なし
9	厚記No.24 (南西側)	油多224	個人住宅建設	H10.7.5 (延べ1日間)	943m ²	17.5m ² (散布地)		(陶片・近世陶器堆积)	支障なし
10	三野町 381271	青井谷字文持3026番	パークゴルフ場 建設	H10.10.23～10.29 (延べ5日間)	10,286m ²	606m ² (散布地)		調文土器・須恵器・土師器	支障なし
11	加茂社 (隣接地)	戸畠2013番	小学校 体育館新築	H10.10.26～11.17 (延べ14日間)	1,865m ²	225m ² (散布地)	渠・土坑 遺物堆	既生土器・管玉・勾玉・石斧 青玉璧・須恵器・土師器 住材	支障なし
12	戸畠若宮 (西側)	戸畠字若宮3437番	宅地造成	H10.11.4 (延べ1日間)	12,271m ²	388m ² (散布地)	渠・土坑 柱穴	既生土器・土師器・須恵器 中世土器器・焼瓦・近世陶器	支障なし
13	HIS-04 381000	大江354番	小杉町大江 グランド造成	H10.12.16～12.17 (延べ2日間)	11,373m ²	769m ² (散布地 集落跡)	渠・土坑 柱穴	既生土器・土師器・須恵器 中世土器器・焼瓦・近世陶器	本調査必要
14	厚岸大沢 381078	厚岸1363-2	個人住宅建設	H10.12.24 (延べ1日間)	495m ²	9.5m ² (生墨遺跡)		鉄鋤	支障なし
15	HIS-04 381004	大江5番	既生役/木霧埋蔵 改修工事	H11.2.23 (延べ1日間)	766m ²	22m ² (散布地)		既生土器・近世陶器	支障なし
計	8遺跡12箇所 その他の3箇所		延べ 36日間	対象面積 71,705m ²	發掘面積 3,804m ²				

② 遺跡名下の番号は富山県歴史文化財保護地図の番号を示す。

表2 試掘調査一覧



第2図 調査位置 (1:10,000)

HS-04遭跡 (No.3)

調査地は標高約1.4mの平野部に位置する。ここから東へ約250m離れた白石遺跡では、平成2年の本調査で古墳時代初めの大瀧が確認されている。その支流が今回の調査地の方角にあたることが想定されたため、抵觸道路に直交するように試掘トレンチを設定した。

遺構確認は表土下約35cmの青灰シルト質土の地山で行なったが検出できなかった。

遺物は5トレンチの地山上層から弥生土器の細片1点が出土している。(原田)



PL.1 調査地近景（北西から）



第3図 登録区

HS-04遺跡 (No.1)

調査地は大江部落東端に位置する大江小学校跡地で、運動場として利用されている。このため旧水田の表土から60~70cmの高さまで、山砂の盛り土となっていた。

遺構確認は旧表土下約20cmにある青灰色砂質土の地山で行なった。1・4・5トレンチでは、旧表土下に旧校舎の廃材などが埋め立てられていたが、3トレンチ以南は旧水田のままで擾乱はない。

遺物は弥生時代の高杯や壺、近世の越中瀬戸の小皿1点が出土している。(原田)



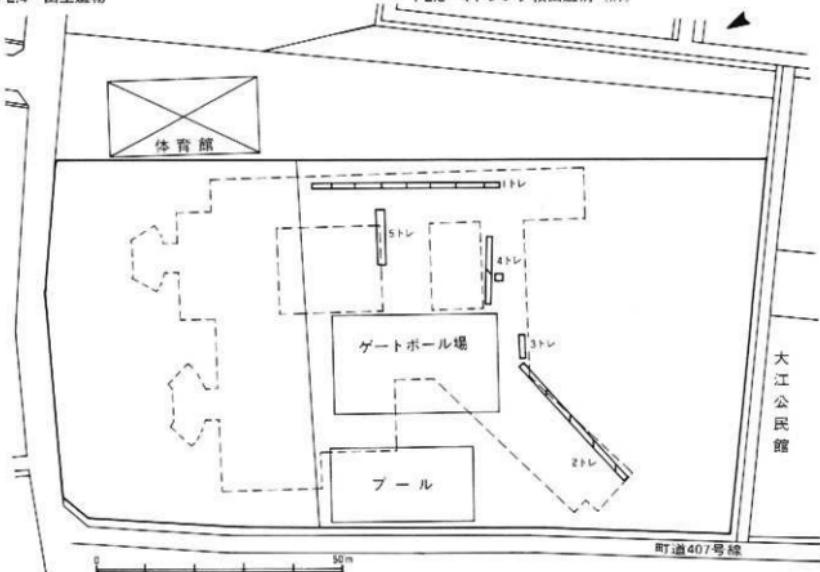
PL.2 発掘調査風景 (2トレンチ; 西から)



PL.4 出土遺物



PL.3 4トレンチ検出遺構 (溝)



第4図 発掘区

HS-04遺跡（No.13）

調査地は平成8年に、ふるさと農道整備事業で本調査を行なった箇所の北側に位置する。

遺構確認は表土下15~50cmの淡黄灰色粘質またはシルト質土及び灰色砂の地山上面で行なっている。

遺構は先の調査で既に確認した平安時代から中世の集落に関連した遺構のか、弥生時代の土坑も見つかっている。

(原田)



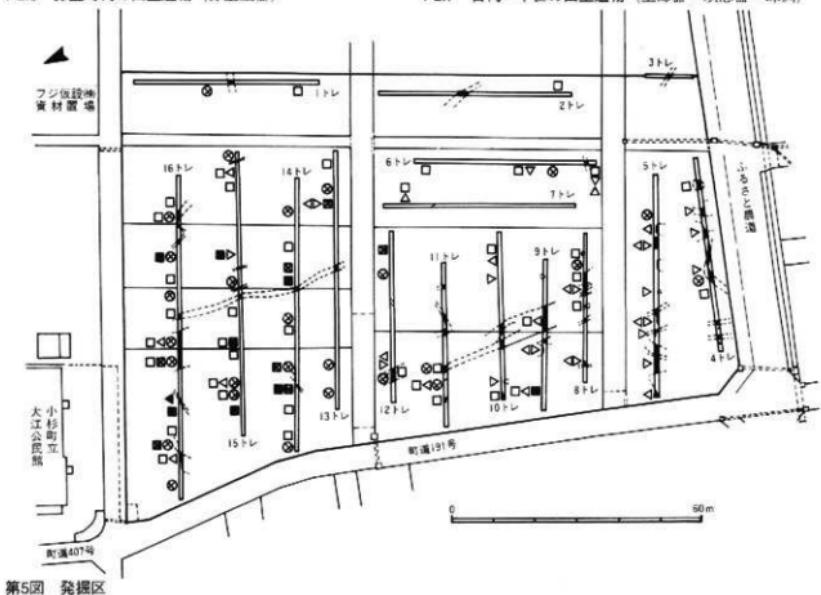
PL.5 調査地近景（南西から）



PL.6 弥生時代の出土遺物（弥生上器）



PL.7 古代・中世の出土遺物（土師器・須恵器・珠洲）



戸破若宮東遺跡（No.2）

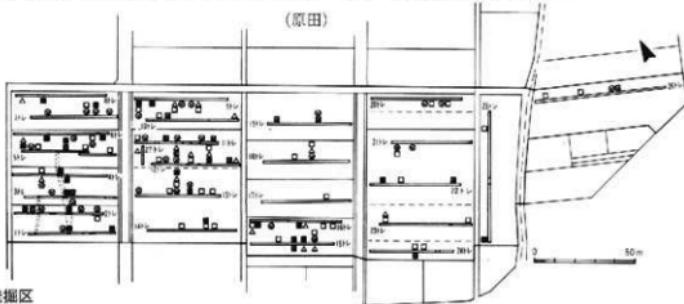
遺跡は標高2.7mの平野に立地し、平成6年に実施した分布調査で発見されている。調査地北側の戸破若宮遺跡では、平成3年に大規模な発掘調査が行なわれ、弥生時代後期と中世を中心とした集落跡が確認されている。

今回の調査では、分布調査で遺物が多かった調査地の東側からは遺構が確認されず、中央部分で南北方向に幅約20～30mの浅い谷が入る地形となっていた。谷から30mほど西側で中世を中心とした溝や土坑が確認された。

この結果、西側約2,200m²を本調査することになった。



PL.8 調査地西端近景（北から）



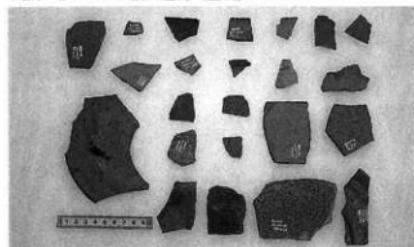
第6図 発掘区



PL.9 2トレンチ検出遺構（土坑）



PL.11 中世の出土遺物（珠洲・青磁・土師器）



PL.10 古代の出土遺物（須恵器）



PL.12 近世の出土遺物（越中漬戸など）

戸破若宮遺跡西側 (No.12)

調査地は戸破若宮遺跡から西側に約250m離れた、標高約3mの平野部に位置する。

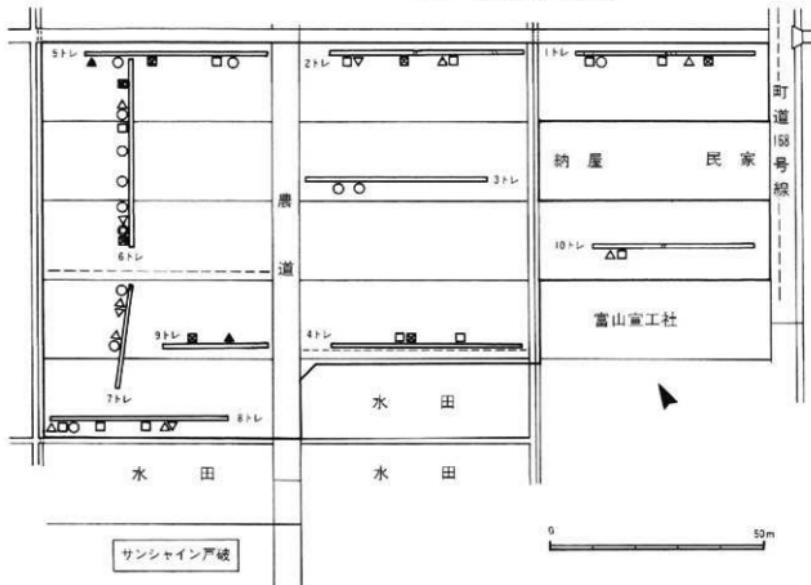
調査は計画地を含む広範囲に大量の土器が散布したため、遺跡の存在を確認する試掘を実施した。

遺構検出は表土下20~50cmの淡黄灰色及び灰色の堆山で行ない、旧用排水路と考えられる溝数条を確認した。

遺物は弥生時代から近世までの各時代の土器が数点ずつ出土している。(原田)



PL.13 調査地近景 (西から)



第7図 発掘区



PL.14 弥生時代・古代の出土遺物 (弥生土器・須恵器・土師器)



HS-04遺跡 (No.15)

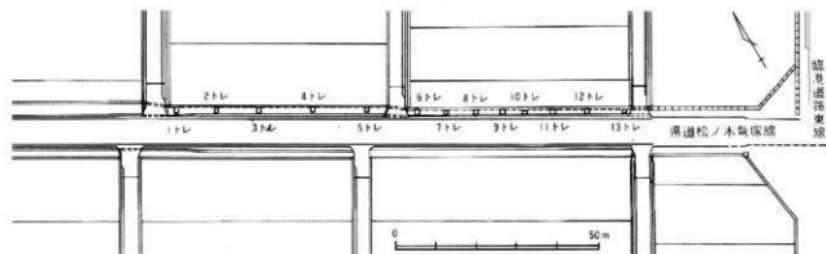
調査地は平成8年度から続いた県道拡幅工事区間の東端に位置し、標高が1.3m前後である。古墳時代初めの溝や規格の大きい中世館跡が確認された白石遺跡に隣接する。

遺構確認は表土下25cm前後の黄灰褐色粘質土で行なったが検出されなかった。

遺物は8トレンチから弥生土器が1点確認されている。また、1~5トレンチを設定した水田の南側道路拡幅部分で、十数点の弥生土器と越中瀬戸の小皿1点を採集した。



(原図) PL.16 出土遺物 (弥生土器・越中瀬戸)



第8図 発掘区

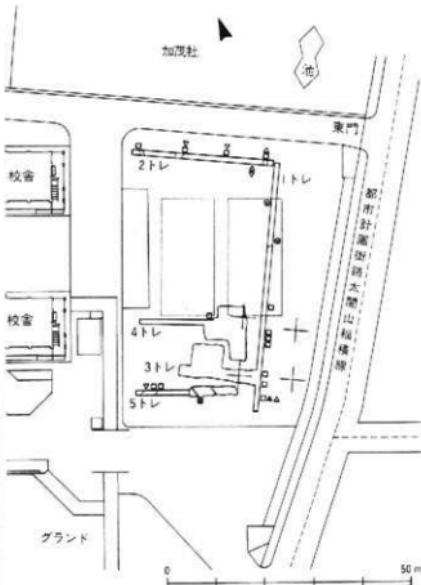
加茂社遺跡隣接地 (No.11)



第9図 調査位置 (1:10,000)



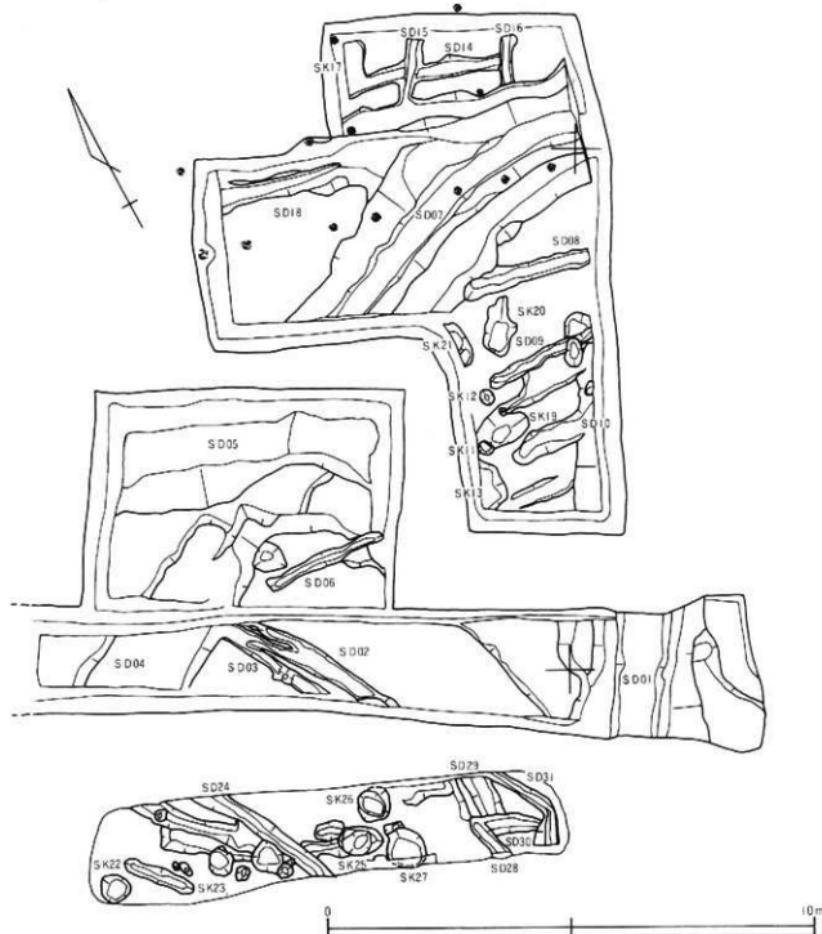
PL.17 調査地近景 (北東から)



第10図 発掘区

調査地は戸破に所在する加茂社の南側に位置し、標高約5.5mである。現況は小杉中学校のテニスコートになっており、旧地表面から約80～100cmの高さまでグランド用造成土砂で埋め立てられていた。旧地表面と現在の加茂社境内地との比高差は約50cm前後となっていて、社は境内地の一段高い部分に築かれていたことが窺える。

遺構確認は旧表土下40～50cmの灰黄褐色または青灰色土の地山でない、発掘区南側では遺物がまとまって出土した箇所を中心に試掘トレンチを拡張して調査を行なった。遺構には弥生時代末から古墳時代初めの溝や土坑が確認され、器形の判る高杯・壺・臺のはか、管玉とその加工途中を示す未製品及び材料の碧玉岩や勾玉1点が出土している。また、奈良～平安時代の須恵器や土師器も十数点出土している。(原田)



第11図 試掘トレンチ拡張区検出遺構



PL.18 第一次拡張区近景（北西から）



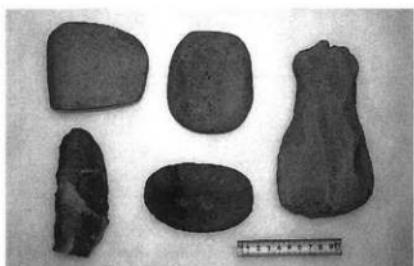
PL.19 第二次拡張区近景（北西から）



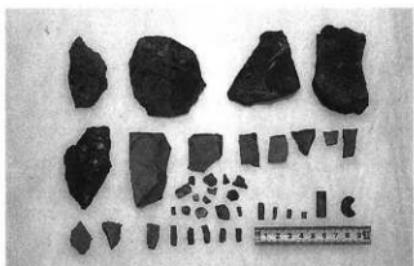
PL.20 SD07（弥生時代末から古墳時代初め）



PL.21 SD07出土の高杯



PL.22 出土遺物（石器）



PL.23 出土遺物（管玉・勾玉と未製品及び碧玉岩）



PL.24 出土遺物（弥生土器）



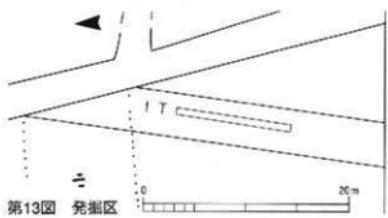
PL.25 出土遺物（古代）

黒河尺目遺跡 (No.4)

射水丘陵の縁部、標高11.8mに位置する。基本層序は耕作土1層からなり、短時間で堆積したものと考えられる。遺構・遺物は確認できなかった。(稲垣)



PL.26 作業風景 (北から)



黒河尺目遺跡 (No.5)

標高11.8mの射水平野南東部に位置する。

基本層序は1層耕作土、2層漸移層、3層地山の単純な堆積で、遺構・遺物はまったく認められなかった。

今回の調査及び黒河尺目遺跡(No.4)やその南側で昨年行なった大規模な試掘調査の結果から、遺構は包蔵地南東部において希薄であると考えられる。(稲垣)



第12図 調査位置 (1:10,000)



第14図 発掘区



PL.27 作業風景 (北から)

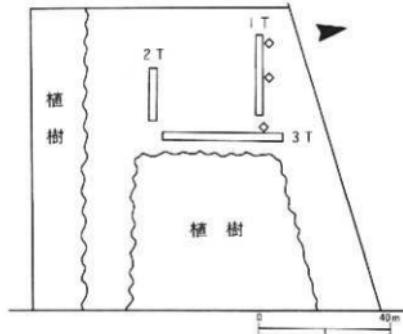


PL.28 作業風景 (南から)

塚越大沢遺跡 (No.14)

当遺跡は標高12mの平野に位置し、近隣には縄文時代から古代に至るまでの遺跡が所在する。

出土遺物は鉄滓で、遺構は検出されなかった。隣接する塚越B遺跡は製鉄関連遺跡であることから、対象地の周辺に製鉄関連遺構がある可能性がある。(稲垣)



第15図 発掘区

畠縄No.15遺跡 (No.6)

標高5.5mの射水平野の東部、畠縄No.16遺跡の北に隣接する。土層の堆積は、黒河尺目遺跡(No.4・5)とほぼ同じで、土の様子も非常に似ている。この辺り一帯の土層は地山(灰白シルト質土)の上層が耕作土1層で、その耕作土は繋まりがないのが特長である。

調査区からは近代の溝と小道を確認したほかは遺構・遺物は検出されなかった。(稲垣)



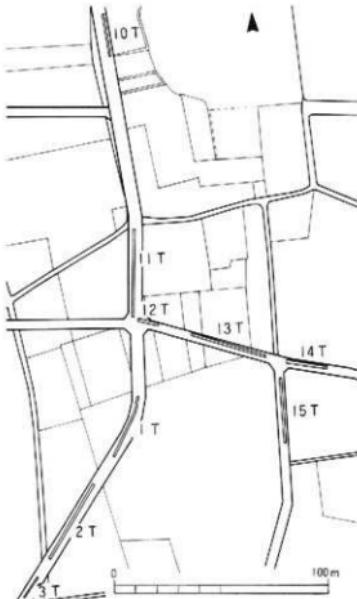
PL.31 調査区近景 (15トレンチ；南から)



PL.29 作業風景 (2トレンチ；西から)



PL.30 出土遺物 (鉄滓)



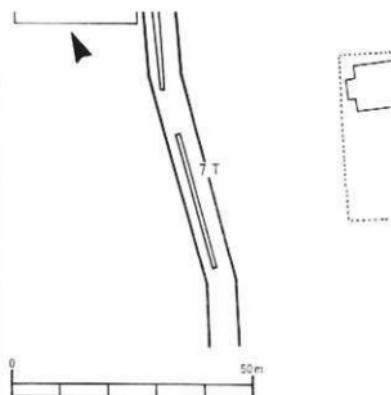
第16図 発掘区

黒河新十三塚（No.7）

当遺跡は畠總No.16遺跡を中央で南北に分断するようにし、首塚は東西方向に並ぶように点在する。トレンチはその塚と塚の間に設定したが、遺構・遺物を確認することはできなかった。（福垣）



PL.32 調査区近景（7トレンチ；北から）



第17図 発掘区

畠總No.16遺跡（No.8）

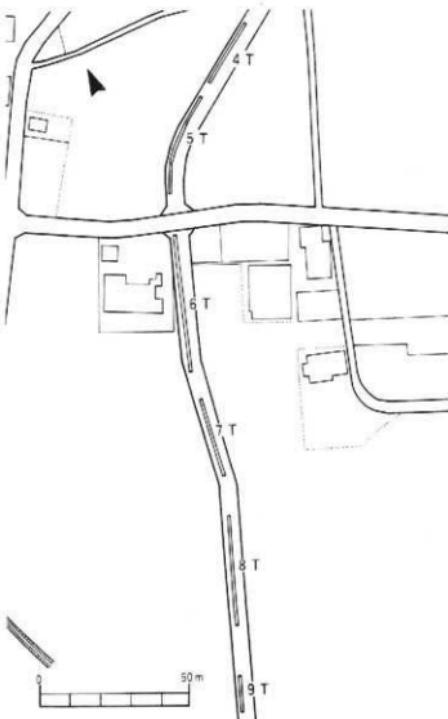
標高8mの平野部に位置し、北側には畠總No.15遺跡、南側には黒河新尺目遺跡が隣接する。

今回の調査では、その中央部分に南北方向のトレンチを設定した。基本層序は、黒河新十三塚・畠總No.15遺跡と同じ、1層耕作土（黒色土）、2層地山（灰白シルト）である。

検出遺構は、近代の地境を数条確認したにとどまり、遺物は確認できなかった。しかし、昭和63年の調査で6トレンチの西、約60mで遺構が確認されており、今回の調査地は遺構の希薄な部分であったと考えられる。（福垣）



PL.33 調査区近景（4トレンチ；北から）



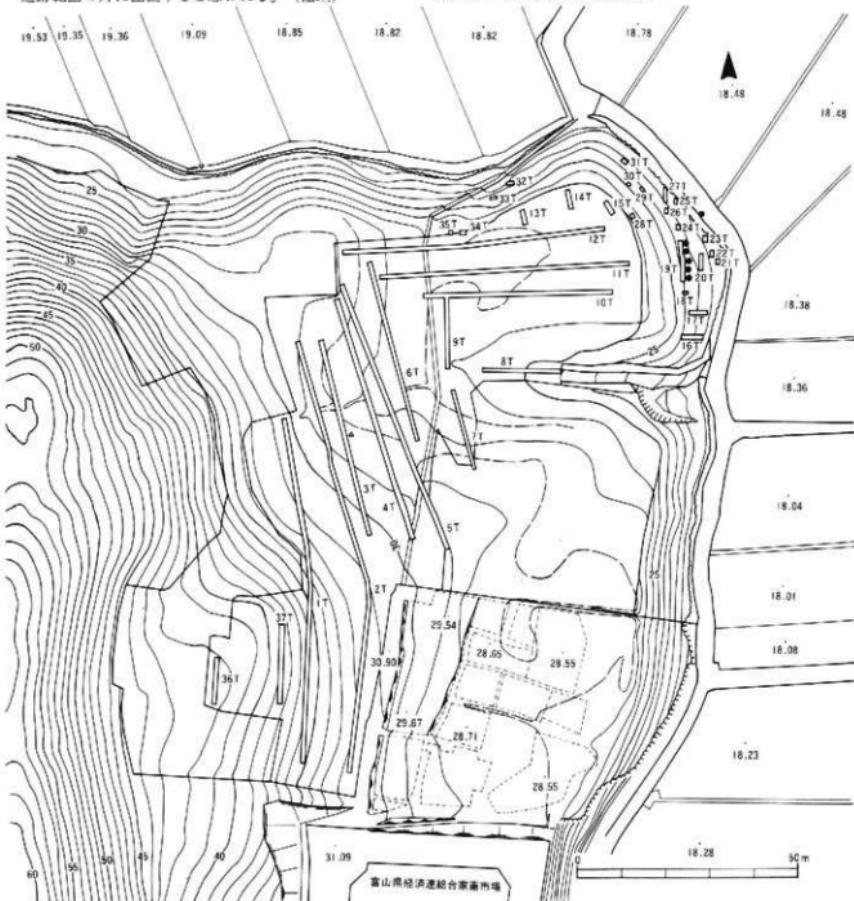
第18図 発掘区

三野西遺跡（No.10）

パークゴルフ場として造成される丘陵縦斜面部分と、縦辺部について調査を行なった。出土遺物には縄文土器・須恵器・土師器があるが、遺構は確認できなかった。また、駐車場予定地の水田部分については分布調査を行なったが遺物を探査することはできなかった。これは水田部分が下条川の開析による谷で、その後自然堆積や川の氾濫などにより埋没したためだと考えられる。このことからおそらく遺跡範囲の外に位置すると思われる。（稲垣）



第19図 調査位置 (1:10,000)



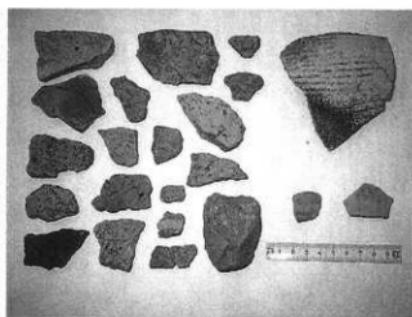
第20図 発掘区



PL.34 農道に面する切通し（東から）

烟総No.24遺跡南西側（No.9）

標高18.5mの射水丘陵と平野の境目に位置する。分布調査で鉄滓と越中瀬戸を探査したが、立ち会い調査では、遺構・遺物を確認することができなかった。（稻垣）



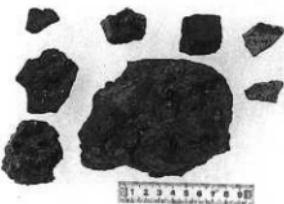
PL.35 出土遺物（縹文土器・須恵器）



第21図 調査位置 (1:10,000)



PL.36 作業風景（北から）



PL.37 分布調査採集遺物（鉄滓）



PL.38 分布調査（No.16）採集遺物



PL.39 分布調査（No.27）採集遺物

4. 本調査

平成10年度に教育委員会で実施した本調査は、3遺跡3件であった。事業内訳では公共事業で3年間の継続調査となつたふるさと農道整備事業1件と民間事業の住宅及び宅地造成の2件となつてゐる。

No.	遺跡名	所在地	原	調査期間	発掘面積	検出遺構	出土遺物
1	二の井II (381087)	下条715	住宅建築	H10.4.22~4.27 (延べ4日間)	167m ²	溝・土坑・柱穴	弥生土器・土師器・珠洲・鐵滓 越中瀬戸
2	戸破若宮東 (381295)	戸破若宮東 3101外	宅地造成	H10.7.1~7.31 (延べ22日間)	2,200m ²	溝・戸門・土坑 柱穴(中世)	弥生土器・須恵器・中世土師器 珠洲・木製品・輸入陶磁器 瓦質陶器・近世陶器・磁器
3	愛宕 (381002)	三ヶ78-1外	ふるさと農道 整備事業	H10.8.18~9.29 (延べ24日間)	400m ²	溝1 土坑2(弥生末) 井戸10基・土坑9 柱穴(中世)	弥生土器・土師器・須恵器・鐵滓 フイゴの羽口・珠洲・中世土師器 木製品(曲物・箸・漆碗) 石製品(砥石・五輪塔の火輪部) 近世陶器
計	3遺跡			延べ50日間	発掘面積 2,767m ²		

表3 本調査一覧

◎ 遺跡名下の番号は富山県埋蔵文化財保護地図の遺跡番号を示す。

二の井II遺跡 [NO.1]

調査対象地は、標高8.5mの射水丘陵と射水平野の境目に位置する。当地は二の井II遺跡の包蔵地内に含まれることから個人住宅建設に先立ち、平成10年3月13日に試掘調査を行なった。調査の結果、柱穴3基と溝2条を確認し、弥生時代・古代・中世の遺物を検出した。また、平成7年に行なった西側に隣接する水田を試掘調査したところ、遺跡内に位置することが認められており、これらの結果を総合し対象地が二の井II遺跡内に位置すると判断した。

本調査は、平成10年4月22~27日の延べ4日間にわたり行なった。調査はまず重機により耕作土を除去し、次いで人

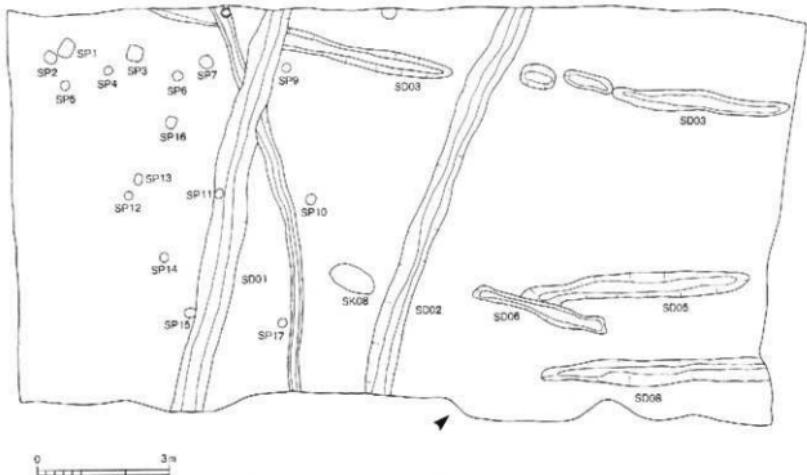


第22図 調査位置 (1:10,000)

力により遺構検出、遺構掘りを行なった。基本層序は1層：黒褐色土(耕作土10~15cm)、2層：褐色土(漸移層5~10cm)、3層：茶褐色土(0~15cm)、4層：黄灰褐色土(地山)の順である。確認された遺構は、溝7条・柱穴18基・土坑1基を検出した。遺物は弥生時代・古代・中世のものが出土した。

調査の結果、検出遺構は弥生時代後期・中世・近世に属すると考えられる。大半の遺構内から弥生土器が出土しているが多くは流れ込みと思われる。特に溝については年代を確定することはできないが、SD04はSD01より古く、柱穴は2条の溝が埋まつた後に掘り込まれていることから、少なくとも溝は弥生時代といえる。柱穴については、弥生時代終末あるいは中世と考えられるが決め手にかけ、西側に調査範囲を広げれば建物を復元できる可能性もあり、柱間などから時代を特定できる可能性がある。

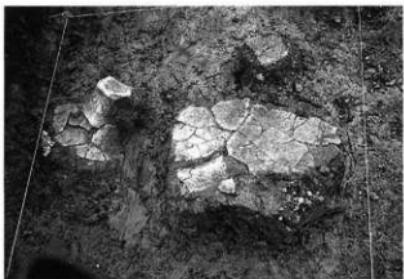
出土遺物の大半を占める土器は弥生時代後期に属する。おそらくこれらの土器と同時期と考えられるメノウの原石や鉄石英の剥片が数点出土しており、玉を作っていた可能性もある。そのほか鐵滓、珠洲の壺やすり鉢、越中瀬戸の皿などが出土した。(略述)



第23図 造構配置図



PL.40 調査地近景（西から）



PL.41 土器の出土状況（包含壙）



PL.42 SP7の半裁の様子



PL.43 出土遺物

戸破若宮東遺跡 [No.2]

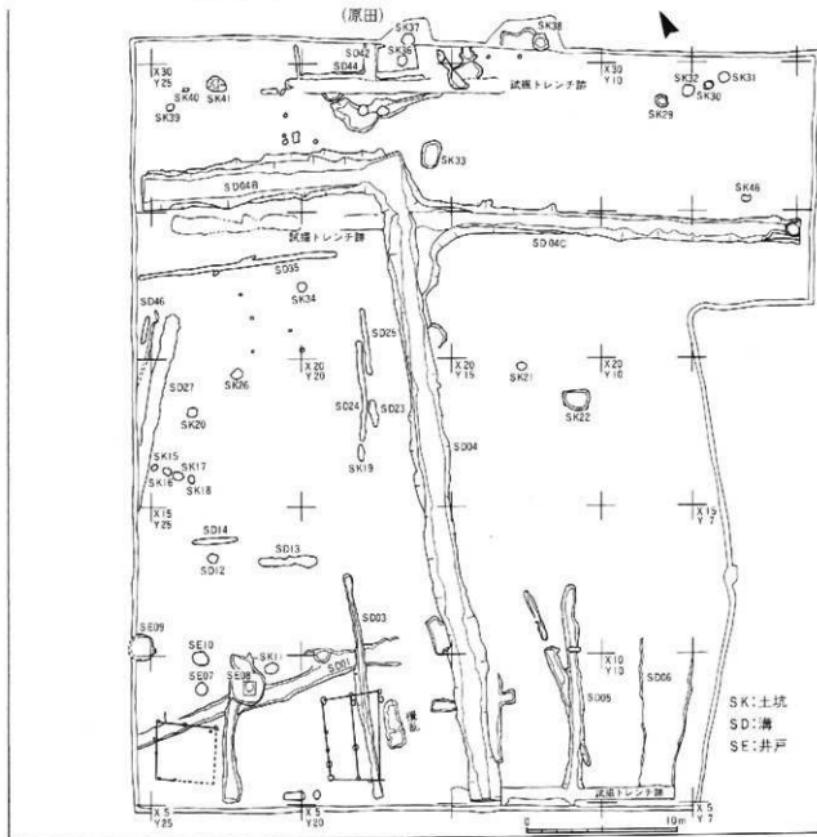
調査は同年4月に実施した試掘で遺構を確認した部分で行なっている。

調査地は平成3年の戸破若宮遺跡発掘区の南側に位置し、この調査との関連が想定された場所であった。

調査からは、中世の居住空間を区画すると考えられる溝(SD04)や発掘区南西隅の井戸(SE07~10)4基と、その南に掘立柱建物2棟が想定される柱穴が確認された。また、区画溝(SD04B・C)の北側の土坑(SK29~32・37・38)などは時期的にやや古く、奈良～平安時代と考えられる。



第24図 調査位置 (1:10,000)



南日昇電子工業

第25図 遺構配置図 (1:300)



PL.44 調査地近景 (北から)



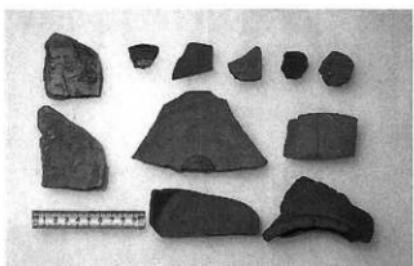
PL.45 調査の様子 (手前 SD04: 中世)



PL.46 SE08 (中世)



PL.47 調査地完掘後近景 (北から)



PL.48 古代の出土遺物 (須恵器)



PL.49 中世の出土遺物 (珠洲)



PL.50 中世の出土遺物 (土師器)



PL.51 中世・近世の出土遺物 (陶器・磁器)

愛宕遺跡 [No.3]

調査は平成8年から行なわれ本年で終了している。

調査地は下条川左岸に最も近く、発掘区東端では蛇行していた旧下条川との関連が想定される古代墳の河岸縁辺部(SD157)と、弥生時代後期墳の縁辺部(SD149)を確認している。また、中世の井戸9基なども見つかり、中から曲物、箸、漆椀の木製品と中世土師器皿なども出土している。(原田)



PL.52 発掘調査の様子（北西から）



PL.53 SK148出土の壺（弥生時代）



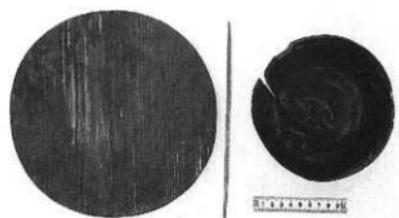
PL.54 SE126出土の遺物（古代）



第26図 調査位置 (1:10,000)



第27図 遺構配置図



PL.55 井戸出土の遺物(左;桶底板 中;箸 右;漆椀)

5. 普及・活用

(1) 埋蔵文化財整理室での作業

整理室では、平成8・9年に実施したHS-04遺跡(下条川改修に伴う公園造成)報告書作成のため、遺物の分類、復元、実測、版組、トレイス、写真撮影などを行なってきた。また、本年度の発掘調査で出土した遺物の洗いや出土地を示す注記作業、写真整理と未刊行となっている発掘調査報告書の作業も並行して進めている。

(2) 埋蔵文化財整理室の見学

平成10年度には次の見学があった。4月15日 高岡市教育委員会(3名)、5月1日・6月23日(駐富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所(3名)、6月22日・9月2日・10月23日・2月5日 富山県埋蔵文化財センター(6名)、7月15日 町社会教育委員(15名)、7月31日 町少年探検隊(44名)、11月24日 富山大学学生(1名)、12月17日 小杉中学校3年生(25名)、2月5日 富山県行政監察事務所(2名)、富山県文化課(1名)、このほか町民の方々などを含め県内外から約130名の来室があった。

(3) 報告書などの刊行

平成10年度事業として、小杉町教育委員会が1999年3月に刊行のものは以下のとおりである。

①『HS-04遺跡発掘調査報告』

—二級河川下条川広域基幹改修事業(タートルランド建設)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告—(A4判 140頁)

②『小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1998年度』(A4判 22頁)

埋蔵文化財整理室内作業風景



PL.56 遺物の水洗作業（戸破若宮東遺跡出土の陶物桶）



PL.57 土器復元作業(HS-04遺跡出土遺物:タートルランド建設)



PL.58 土器復元作業（愛宕遺跡復元土器の石膏入れ）



PL.59 土器実測作業

調査の種類	現地確認・分布調査				試掘調査			本調査		
	年 度	件 数	対象面積(m ²)	延べ調査日数	件 数	発掘面積(m ²)	延べ調査日数	件 数	発掘面積(m ²)	延べ調査日数
5	※12	16,865	7	4	1,189	15	6	12,286	362	
6	22	54,650	11	8	4,714	19	3	5,304	148	
7	27	84,031	21	23	3,079	42	1	400	49	
8	29	51,502	17	13	2,159	27	6	6,695	296	
9	44	88,519	27	15	7,937	58	3	3,571	219	
10	36	58,797	19	15	3,504	36	3	2,767	50	

表4 小杉町埋蔵文化財調査件数などの年度別推移（県教委主体調査を除く）

※平成5年度発行の『小杉町埋蔵文化財免認調査一覧 1993年度』 第1表 分布調査一覧 以降の調査数などを加算している。

小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1998年度

平成11年3月31日発行

編集・発行 小杉町教育委員会

富山県射水郡小杉町戸破1511

〒939-0393 TEL (0766) 56-1511

印 刷 日興印刷株式会社

